



意見書を提出

村民の声を
国政の場に

○日本政府に核兵器全面禁止のための決断と行動を求める意見書

2015年NPT（核不拡散条約）再検討会議にむかって、核兵器のない世界への行動が直ちに開始されるよう、日本政府が目標を分かち合う多くの国々と協力し、核兵器全面禁止条約の交渉開始のために努力するように要望しました。

○道教委『新たな高校教育に関する指針』の見直しと地域や子どもの実態に応じた高校づくりの実現を求める意見書

しょうがいのある・なしにかかわらず、希望するすべての子どもが地元の高校へ通うことのできる後期中等教育を保障するための検討をすすめること、などを要望しました。

○義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2015年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書

給食費、修学旅行費、教材費などの保護者負担の解消、就学保障の充実、図書費など国の責任において教育予算の十分な確保、拡充を行うこと、などを要望しました。

○2014年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

北海道労働局、北海道地方最低賃金審議会に、次の措置を講ずるよう要望しました。

- ①2014年度の北海道最低賃金の改正にあたっては、雇用戦略対話合意に基づき早期に800円を確保し、景気状況に配慮しつつ全国平均1,000円に到達することができる審議会運営を図ること。
- ②北海道内で最低賃金以下の労働者をなくすために、道内事業所に対する指導監督を強化し、最低賃金制度の履行確保を図ること。
- ③最低賃金引き上げと同時に、中小企業に対する支援の充実と、その周知を図り安定した経営を可能とする対策を行うよう国に対して要請すること。

○地方財政の充実・強化を求める意見書

公共サービスの質の確保と地方自治体の安定的な行政運営を実現するため、2015年度の地方財政計画、地方交付税総額の決定に当たっては、国の政策方針に基づき、一方的に決めるのではなく、国と地方の協議の場で十分な協議のもとに決定することなどの対策を求めました。

○憲法解釈変更による「集団的自衛権の行使容認」に反対する意見書

国においては、集団的自衛権に関するこれまでの政府見解を堅持し、集団的自衛権の行使に道を開く憲法解釈の変更を断じて行わないように要望しました。

○ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書

次の事項を実現するように要望しました。

- ①ウイルス性肝硬変・肝がんにかかる医療費助成制度を創設すること。
- ②身体障害者福祉法上の肝機能障害による身体障害者手帳の認定基準を緩和し、患者の実態に応じた認定制度にすること。

議会の主なうごき

(平成26年3月議会定例会終了後から平成26年6月議会定例会まで)

- | | | |
|-------|----------------------|----------------------------------|
| 3月17日 | 全員協議会（全議員）・・・・・・・・・・ | 集落対策について他1件 |
| 17日 | 広報特別委員会（各委員）・・・・・・・・ | 議会広報第136号編集 |
| 18日 | | 陸上自衛隊上富良野駐屯地幹部異動に伴う送別会（上富良野町：議長） |
| 19日 | | 小規模多機能施設に伴うヒートポンプの設備調査（旭川市他・各議員） |
| 28日 | 広報特別委員会（各委員）・・・・・・・・ | 議会広報第136号編集 |
| 4月 4日 | 広報特別委員会（各委員）・・・・・・・・ | 議会広報第136号編集 |
| 5日 | | 今津寛衆議院議員政経セミナー（旭川市：議長） |
| 9日 | | ふらの農業協同組合第13回通常総代会（富良野市：議長） |
| 13日 | | 富良野市長選挙当選者祝勝会（富良野市：議長） |
| 15日 | 広報特別委員会（各委員）・・・・・・・・ | 議会広報第136号編集 |
| 5月 1日 | | 富良野沿線市町村議会議長会総会（上富良野町：議長） |
| 9日 | | 富良野地方自衛隊協力会総代会（上富良野町：議長） |
| 22日 | | 総務産業常任委員会村内所管事務調査（各委員） |
| 22日 | 全員協議会（全議員）・・・・・・・・・・ | 高齢者福祉施設について他2件 |
| 24日 | | 道州制問題に関する緊急集会（札幌市：議長） |
| 6月 2日 | 総務産業常任委員会（各委員） | |
| 5日～6日 | | 北海道町村議会議長会定期総会及び研修会（札幌市：議長） |
| 9日 | | 議会運営委員会（各委員） |
| 10日 | | 上川地方総合開発期成会定期総会（旭川市：議長） |



村内では、この夏も地域資源を活用した修学旅行の受け入れが実施されています。今年も関西地方を中心に4つの高校から、1030人が占冠村を訪れ、様々な魅力に触れています。

このプログラムは「感響（かんきょう）プログラム」と名付けられ、その内容は「エゾシカ」「林業」「アイヌ文化」「ヒグマ」「源流から海へ」と様々です。そのうち「エゾシカの保護管理」プログラムでは、実際にエゾシカの解体を見て、加工や製品化も学びます。最後には猟師特製の「鹿汁」を食べて命について頭と全身で考えるのです。

道内の修学旅行は、ほとんどが観光地めぐりが主体で、こういった地域資源を活用した学習機会が多いプログラムは数が少ない現状です。しかし、都市部の生徒たちが地域の現状を知り、地域の人と交流し、本物の自然に触れることで、これからの都市と田舎の関係を変えていく可能性があります。

村に住む私たちも、あらためてこの地域にある資源（宝）について知り、その豊かさを日々感じながら暮らしていきたいものです。

（山本記）

▼議会広報特別委員会（後期）

- | | |
|------|---------|
| 委員長 | 山本 敬介 |
| 副委員長 | 小峰 義雄 |
| 委員 | 木工 藤國 俊 |
| 委員 | 木村 一俊 |